第16巻　第9号
発行日　令和３年1月22日

長崎県立長崎北高等学校

長崎北高ＮＥＷＳ　1月号

ホームページもご覧ください。
http://www.news.ed.jp/kita-h/

２月の行事予定

日	曜	行　事	日	曜	行　事
1	月		16	火	PTA理事評議員会
2	火		17	水	学年末考査①②
3	水	前期選抜	18	木	学年末考査①②
4	木		19	金	学年末考査①②
5	金		20	土	特別授業③
6	土	進研マーク② 特別授業③	21	日	
7	日	進研マーク②	22	月	学年末考査①②
8	月	(水)の授業	23	火	天皇誕生日
9	火	ＤＶ防止教育講演会② 考査時間割発表①②	24	水	図書ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
10	水	北高Run7ｪｽﾀ	25	木	国公立大前期試験③ 探究発表会①②
11	木	建国記念日	26	金	３次特編開始③
12	金		27	土	ｽﾀﾃﾞｨｻﾎﾟｰﾄ① 特別授業②③
13	土	特別授業③	28	日	卒業式予行
14	日				
15	月				

北高の児等へ

「最後とは知らぬ最後が過ぎてゆく」

校長　林田　誠一

昨年の９月に発刊された俵万智さんの最新歌集『未来のサイズ』には、東日本大震災を機に移り住んだ石垣島でのこと、息子さんの中学入学のタイミングで移り住んだ宮崎でのこと、そして昨年夏までのコロナ禍のこと等を詠んだ４００を超える歌が収められています。31文字で切り取られた日常は、私たちが見逃してしまいがちな、けれども本当は見逃してはならない大切なことに改めて気づかせてくれます。

「朝ごとの検温をして二週間前の自分を確かめている」
「コンビニの店員さんの友だちの上司の息子の塾の先生」
「感染者二桁に減り良いほうのニュースにカウントされる人たち」
「第二波の予感の中に暮らせどもサーフボードを持たぬ人類」

１１都府県に緊急事態宣言が発令され、急激な感染者の増加に日々危機感を募らせている現在からすると、マスコミが「第二波」と呼ぶべきか否かの議論をしていた７月末頃のことが遠い昔のように思えます。サーフボードで波に乗るようなことなどできるはずもない人類は、感染の波をかぶりながらも、刹那的な感情におぼれることなく、射程の長い視野を持って理性的に対処していかなければなりません。

次のような歌もありました。親として身につまされる歌です。

「最後とは知らぬ最後が過ぎてゆくその連続と思う子育て」

これはご自身の子育て（息子さんは中学入学と同時に寮に入られたそうです）を振り返って読んだ歌だとのこと。次のようなインタビュー記事が1月8日付けの長崎新聞に載っていました。「子どものために絵本を読むとか弁当を作ることが終わる日が来るなんて思ってもいなかった。どの日が最後か分からないまま時が過ぎていく」

子育てに限らず、人生には、これが最後だと思いもせずに過ごしてしまっていることも少なくないのでしょう。昨年６月、新型コロナのために高校総体が中止になったとき、「去年の高校総体が自分にとっての最後の高校総体になってしまった」と、３年生の皆が思ったはずです。

「最後とは知らぬ最後が過ぎてゆく」。

難しいことですが、何でもない日々の暮らしを、心をこめて大切に過ごしていきたいものです。

TO BE WELL BALANCED
～両道顕揚～　誇りをもち、自信をもつ

【学芸部演劇班　九州大会出場】

私たちは12月２５～２６日に熊本県で行われた九州高等学校演劇研究大会に出場してきました。その結果、優良賞及び創作脚本賞をいただきました。県外での大会は、高校生の私たちにとっては長旅で、部員の絆もより深まったと思います。

今回の大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、無観客での開催となりました。たくさん応援してくれた大好きな家族や友達、先生方に見ていただけなかったことが悔やまれますが、このような状況下でも舞台に立てたこと、そして同じ志を持つ仲間と出会えたことを心から幸せに思います。支えてくださった皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。大会は、各県の代表校ということもあって同じ高校生とは思えないようなハイレベルな舞台ばかりで、圧倒されました。観劇していろんな学校の良いところを吸収してきたので、これを成長につなげていきたいです。いざ舞台に立つと、久しぶりの心地よさで、緊張よりもワクワクの方が大きかったです。1時間が本当にあっという間でした。

今後の活動も先が見えず、不安もありますが、今回の大会で学んだことを生かして、次はもっともっと良い舞台を皆さんにお届けできるように頑張ります。また、今回上演した『明日、ドーナツは宇宙の夢を見る。』(通称：ドナソラ)は文化祭でも公演予定です。演劇に興味がある人もない人も、一度騙されたと思って見に来てください！後悔はさせません！今後も暖かく見守っていただけたら嬉しいです。学芸部1年　清家　夕里帆

【NHK放送　被爆75年高校生とアナウンサーによる長崎朗読シアターに出演して】

NHKの番組の「被爆７５年長崎朗読シアター　～高校生とアナウンサーが被爆を読む～」に参加させていただきました。いくつかの作品の中で私が担当したのは、永井隆さんの「長崎の鐘」です。この作品は、昔の言葉が多く使われていたり、ピアノの音に乗せたりしなければならなかったので難しい作品でした。
また、現職のNHKアナウンサーと読むので、声量やクオリティーの差が大きくならないように何度も練習したり、アナウンサーさんから学んだことを生かすように気を付けました。

この番組に参加してみて、アナウンサーの声を真近に聞くことや番組制作の裏側も見ることができたので、貴重な経験になりました。また、ほかの学校の放送部員とも交流ができたので、とても楽しかったです。そして何より、長崎に住む私にとって「被爆」や「平和」はとても大切なことなのでこの番組を通して、自分自身も学ぶことができたし、視聴者にも少しでも「平和」について考えてもらえたらうれしいと思いました。これからも、朗読に積極的に参加したり、「平和」を発信していけるような活動をしていきたいです。

放送部1年　渡邊　紗羽

【大学入学共通テスト出陣式】

１月１５日（金）の午後、共通テスト出陣式を行いました。入試制度改革のなか「英語の外部検定試験」や「共通テストでの記述式の導入」が見送られるなど戸惑いも多く、さらに新型コロナウイルスへの対応のため臨時休校や夏季学習合宿の中止など大変な思いをした55回生でした。

出陣式は感染症対策のために体育館での実施を避け、各教室への放送という形で実施されました。学校長と学年主任からの激励に続いて、生徒を代表して３年１組池田将大さんが決意表明をしました。その中で、「入試制度の度重なる変更や感染症への不安など理不尽な運命を乗り越えてきた仲間との絆は強く、５５回生一丸となって乗り越えたい」と真摯に努力をしてきた生徒からの心に響くメッセージが発信されました。

第３学年主任　立山秀昭

部活動・大会等の結果報告

＜射撃部＞

◎第5回九州高等学校ライフル射撃競技新人大会

- 男子総合団体　第3位
- BR男子団体　第1位
- AR女子団体　第3位
- BRS60J　第4位　川上優
  第5位　石丸航太郎
- 10mARS60JW　第6位　大島あかり
- BP60J　第7位　古瀬裕智
- BP60JW　第7位　西原碧唯

＜学芸部＞

◎第62回九州高等学校演劇研究大会

創作脚本賞　優秀賞　テレビ熊本賞